

平成22年度 教養教育科目 / 専門教育科目 授業日程計画

前 期							後 期										
曜日	日	月	火	水	木	金	土	備 考	曜日	日	月	火	水	木	金	土	備 考
4 月					1	2	3	1日～7日 春季休業 1日 新生オリエンテーション 2日 新生履修相談会 3日 TOEIC-IPテスト 8日 入学式、新生オリエンテーション 9日 授業開始  29日～5月5日 特別休業 29日 昭和の日 注：4月30日は休業日であるが授業を行う。	10 月						1	2	11日 体育の日  22日 開学記念日 注：休業日であるが授業を行う。
	4	5	6	7	8	9	10			3	4	5	6	7	8	9	
	11	12	13	14	15	16	17			10	11	12	13	14	15	16	
	18	19	20	21	22	23	24			17	18	19	20	21	22	23	
	25	26	27	28	29	30				24	25	26	27	28	29	30	
									31								
5 月							1	3日 憲法記念日 4日 みどりの日 5日 こどもの日	11 月		1	2	3	4	5	6	3日 文化の日  【20日～22日 大学祭】 19日 午前：臨時休講 午後：臨時休業(大学祭準備) 22日 臨時休業 23日 勤労感謝の日(大学祭後片付け)
	2	3	4	5	6	7	8			7	8	9	10	11	12	13	
	9	10	11	12	13	14	15			14	15	16	17	18	19	20	
	16	17	18	19	20	21	22			21	22	23	24	25	26	27	
	23	24	25	26	27	28	29			28	29	30					
30	31																
6 月			1	2	3	4	5		12 月				1	2	3	4	23日 天皇誕生日  25日～1月7日 冬季休業
	6	7	8	9	10	11	12			5	6	7	8	9	10	11	
	13	14	15	16	17	18	19			12	13	14	15	16	17	18	
	20	21	22	23	24	25	26			19	20	21	22	23	24	25	
	27	28	29	30						26	27	28	29	30	31		
7 月					1	2	3	19日 海の日 * 23日は月曜日の授業を行う。	1 月							1	1日 元日 7日 冬季休業日 注：休業日であるが授業を行う。 10日 成人の日 * 11日は月曜日の授業を行う。 14日 センター試験実施に伴う臨時休講 15日・16日 大学入試センター試験
	4	5	6	7	8	9	10			2	3	4	5	6	7	8	
	11	12	13	14	15	16	17			9	10	11	12	13	14	15	
	18	19	20	21	22	23	24			16	17	18	19	20	21	22	
	25	26	27	28	29	30	31			23	24	25	26	27	28	29	
8 月								1日～9月30日 夏季休業 注：8月2日-5日は休業日であるが授業を行う。  7日 オープンキャンパス  9日～11日 補講日 12日・13日・16日 夏季一斉休業	2 月	1/30	1/31	1	2	3	4	5	16日～17日 補講日 11日 建国記念の日 16日～3月31日 臨時休講  25日・26日 一般入試(前期日程)
	1	2	3	4	5	6	7			6	7	8	9	10	11	12	
	8	[9]	[10]	[11]	12	13	14			13	14	15	[16]	[17]	18	19	
	15	16	17	18	19	20	21			20	21	22	23	24	25	26	
	22	23	24	25	26	27	28			27	28						
29	30	31															
9 月				1	2	3	4	20日 敬老の日  23日 秋分の日	3 月			1	2	3	4	5	臨時休講  12日 一般入試(後期日程)  20日 春分の日 25日 卒業式
	5	6	7	8	9	10	11			6	7	8	9	10	11	12	
	12	13	14	15	16	17	18			13	14	15	16	17	18	19	
	19	20	21	22	23	24	25			20	21	22	23	24	25	26	
	26	27	28	29	30					27	28	29	30	31			
前期計	16	16	16	16	16			授業週数 (含試験)	後期計	16	16	16	16	16			授業週数 (含試験)

↑ 7月23日を含む

↑ 1月11日を含む

■ は休業日及び臨時休講を示す。

□ は月曜日の授業を行う日及び休業日であるが授業を行う日を示す。

## 講座・教育研究分野の紹介

### 薬学部薬学科

#### 医療薬学講座

教育研究分野	教 育 研 究 内 容
臨床薬学	<p>血管周囲神経の機能と血管緊張調節機構の解明研究、生活習慣病における血管障害の成因解明と薬物治療についての教育・研究を行う。研究テーマは、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○血管周囲神経-神経間伝達機構の解明と緊張度調節における役割に関する研究</li> <li>○カルシトニン遺伝子関連ペプチド (CGRP) 作動性血管拡張性神経機能の神経薬理・分子薬理学的研究</li> <li>○インスリン抵抗性改善薬の探索研究</li> <li>○ヒスタミン等生理活性物質の血管作用機序に関する研究</li> <li>○中枢神経による血圧調節機構に関する研究</li> <li>○血管周囲神経の分布・再生に関する研究</li> <li>○血管周囲神経の分布・再生を標的とする新規抗がん薬の開発研究</li> </ul>
臨床薬効解析学	<p>好氣的代謝に付随する酸化的ストレスによる疾患(生活習慣病・医薬品の副作用を含む)とその予防・治療的機能素材の開発、体内における反応を代謝・反応の知識や理解に基づく薬物治療の適正化について教育・研究を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○疾患と活性酸素ラジカルとの関連追究</li> <li>○非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH) と酸化的ストレスとその予防・治療に関する研究</li> <li>○生体内活性酸素ラジカル種に対する調節機能素材の探究・開発</li> <li>○漢方薬・生薬・伝承薬の抗酸化やアレルギー調節機能および体内動態に関する研究</li> </ul>
薬物療法設計学	<p>合理的な薬物療法の設計を目的とし、局所における薬物動態特性とこれに関連する製剤特性の新規評価法の開発、患者病態特性を含む個別の医療要請に応じた薬物療法の設計について教育・研究を行う。研究テーマは、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○局所作用型DDS医薬品の局所非結合形薬物動態評価法の開発に関する研究</li> <li>○放出制御型DDS医薬品の開発と評価に関する薬物動態学研究</li> <li>○速度論的解析手法を応用した薬効動態発現過程の解析に関する研究</li> <li>○新規被覆型外用製剤の開発に関する基礎研究</li> <li>○高機能 (DDS) 医薬品製剤の適正使用に関する製剤学・薬物動態学研究</li> <li>○特殊医療条件下 (腹膜透析等) における薬物療法設計に関する薬物動態学研究</li> <li>○病態時における薬物の体内動態変化に関する研究</li> </ul>
分子医薬品情報学	<p>制がん剤と抗マラリア薬の創製とがんとマラリアの制御に関する教育・研究を行う。研究テーマは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新規抗マラリア薬の開発及び抗マラリア作用機序の解析研究</li> <li>○マラリアの遺伝子診断法の開発研究</li> <li>○DNA二本鎖切断酵素の精製及び細胞死の分子機構の解明に関する研究</li> <li>○抗癌剤の作用機序に関する研究</li> <li>○ヒト遺伝子SNPsと抗がん剤のレスポンスに関する研究</li> </ul>
国際感染症制御学	<p>我が国を取り巻く諸感染症および熱帯病の制御に関する教育・研究を行う。研究テーマは、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○抗マラリア作用を有する天然資源の探索および作用メカニズムの解析研究</li> <li>○マラリア原虫の分子生物学の基盤構築に関する研究</li> <li>○薬剤耐性マラリアの耐性機構の解析研究</li> </ul>
薬品作用学	<p>既存薬物の薬理作用及び作用機序の解析、新規薬物開発のための新しい疾患モデルの作製と薬物作用評価等についての教育・研究を行う。研究テーマは、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○てんかんの病態解明と抗てんかん薬の作用機構</li> <li>○学習と記憶に関する行動薬理ならびに神経生理学的研究</li> <li>○睡眠障害モデルの作製と各種睡眠薬の影響</li> <li>○花粉症モデルの作製とその応用</li> <li>○アトピー性皮膚炎モデルの作製と抗アレルギー薬の効果</li> </ul>

教育研究分野	教 育 研 究 内 容
生物薬剤学	<p>薬物の体内動態の解析とその制御に関する教育・研究を行う。研究テーマは、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新しい薬物投与剤形（ドラッグデリバリーシステム）の開発に関する研究</li> <li>○薬物の消化管粘膜透過機構とその改善に関する研究</li> <li>○薬物の経皮・経粘膜吸収機構とその改善に関する研究</li> <li>○薬物吸収の速度論的予測</li> <li>○薬物の組織特異的分布の機構解析</li> <li>○薬物の体内消失過程の速度論的解析</li> <li>○病態時の薬物動態異常の解析に関する研究</li> <li>○微粒子製剤の体内動態の解析と薬物キャリアーとしての応用に関する研究</li> </ul>
膜情報解析学	<p>膜情報の解析を通じて、生体膜に対する薬物作用、及び神経細胞膜の機能とその異常に関する教育・研究を行う。研究テーマは、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○細胞膜を標的とする生理活性物質の作用機構の解明</li> <li>○電気生理学的手法を用いた脳神経活動の解析</li> <li>○脳疾患に伴う神経活動異常の検出</li> <li>○人工レセプターを用いたセンサー開発</li> <li>○電気化学的手法に基づく活性酸素種の検出</li> </ul>
医薬分子設計学	<p>分子モデリング、有機合成、機器分析、並びに、細胞や動物を用いた生物活性評価を通じて新規医薬分子の設計・創製に関する教育・研究を行う。研究テーマは、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○薬剤耐性原虫にも有効な新規抗マラリア薬の開発研究</li> <li>○新規抗 MRSA 剤の開発研究</li> <li>○新規 HDAC 阻害剤の開発研究</li> <li>○新規血管新生阻害剤の開発研究</li> <li>○新規 MMP 阻害剤の開発研究</li> <li>○新規化学発光物質の開発とその試薬としての応用研究</li> <li>○光転位反応によるラクトン及びチオラクトン誘導体の合成とその生物活性研究</li> </ul>
蛋白質機能制御科学	<p>生命体が生存するためには、細胞内で生合成したタンパク質を成熟化させなければいけない。すなわち生合成したタンパク質を目的の部位に移行させ、さらに活性構造を構築させる必要がある。このタンパク質の成熟化過程を、細菌の菌体外タンパク質毒素を中心に教育・研究を行う。研究テーマは、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○タンパク質の産生に関わるシャペロンの作用機構の解析</li> <li>○細菌の病原性を支配するタンパク毒素の産生調節機構の解明</li> <li>○哺乳動物細胞でのタンパク毒素の作用機構の解析</li> <li>○細菌の病原性に関わる因子の遺伝子転移機構の解析</li> <li>○タンパク質の膜通過機構の解析</li> </ul>
遺伝子毒性科学	<p>生物は外的内的要因により、多くの傷害を受けながら様々な修復機構を稼働して生存している。このような生物の対応を特に遺伝子への傷害と修復の関係を中心に教育・研究を行う。研究テーマは、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○紫外線やX線による体細胞傷害ならびにDNA傷害に対する生体応答</li> <li>○アルキル化剤や酸化によるDNA傷害に対する修復機構と突然変異ならびにアポトーシス誘発との関係</li> <li>○体細胞突然変異抑制物質の検索と抑制作用の解明</li> <li>○タバコ副流煙の生体への影響</li> </ul>
分子毒性薬科学	<p>遺伝子傷害・突然変異誘発機構の解明を通して、発がん機構と発がん予防に関する教育・研究を行う。研究テーマは、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○発がん物質と太陽光の光増感反応による遺伝子損傷と変異。発がんの機構解明。</li> <li>○突然変異・遺伝子障害を抑制し、発がんを予防し得る有用物質の探索・単離同定研究と作用機構解明</li> <li>○環境汚染物質の検出・安全性と防護の研究</li> <li>○ピロリ菌による、胃癌発生の促進機構</li> </ul>

教育研究分野	教育研究内容
衛生代謝化学	<p>医薬品を含めた生体異物の、生体に及ぼす影響を代謝化学的立場から分子レベルで解明するための教育・研究を行う。研究テーマは、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○薬物代謝酵素の遺伝子多型と酵素機能の関連性</li> <li>○光学活性薬物の代謝反応における立体選択性発現機構</li> <li>○医薬品による副作用発現の分子機構</li> <li>○環境化学物質の代謝と毒性発現</li> <li>○外来化学物質に対する感受性に影響を及ぼす遺伝的要因</li> <li>○薬物代謝酵素の制御機構</li> <li>○薬物相互作用のin vitro予測系構築</li> </ul>
環境生物薬学	<p>環境汚染物質や環境病原微生物など健康に影響を及ぼすリスク要因の分析、生体への作用機構、環境中での動態などについて教育・研究を行う。研究テーマは、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○細胞溶解毒素の構造と機能ドメインに関する研究</li> <li>○細菌プロテアーゼの毒作用と産生調節に関する研究</li> <li>○細菌細胞間、および細菌宿主細胞間のコミュニケーションに関する研究</li> <li>○病原細菌のヘム獲得戦略の解析</li> <li>○病原ビブリオの生態学および分子疫学的研究</li> <li>○微生物による環境汚染物質の分解に関する研究</li> </ul>
遺伝情報解析科学	<p>生体高分子情報の解析を基礎として、遺伝子の発現調節機構、遺伝子情報の有用応用、蛋白質の構造・機能相関に関する教育・研究を行う。研究テーマは、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○遺伝子操作による蛋白質の構造・機能相関に関する研究</li> <li>○細菌の病原因子発現調節の分子遺伝学的研究</li> <li>○鉄レギュロンの分子遺伝学的研究</li> <li>○新規ポリアミンの生理的役割と生合成経路の解明</li> <li>○腸管出血性大腸菌の病原因子に関する研究</li> </ul>
免疫医薬品化学	<p>免疫機能の制御機構、それをコントロールし免疫疾患に有効な生体内物質や天然物質、非自己の侵入により傷害を受けた組織の再生制御機構とそれを調節する増殖・分化誘導因子、またマスト細胞を介する免疫制御機構などに関する教育・研究を行う。研究テーマは、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○Bリンパ球活性化、分化及びアポトーシスの制御並びにそれらをコントロールする物質に関する研究</li> <li>○IgE産生とアレルギーを制御する物質に関する研究</li> <li>○NK細胞を活性化し癌細胞を抑制する生理活性物質に関する研究</li> <li>○肝細胞増殖因子（HGF）の機能と産生制御に関する研究</li> <li>○HGF産生誘導物質による組織再生とその応用</li> <li>○神経細胞の分化誘導物質に関する研究</li> <li>○マスト細胞の分化、成熟メカニズムの解明</li> <li>○IgEを介する免疫反応の機序の解明</li> <li>○ヒスタミンによる免疫制御機構の解明</li> </ul>
医薬管理学	<p>臨床上の問題解決能力に不可欠である先端科学の基礎知識と研究マインドを持った臨床薬剤師と臨床における問題点に視線を常に向ける基礎薬学（精神神経薬理学）研究者の育成を行う。研究テーマは、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○治療抵抗性うつ病の病態解明および次世代の抗うつ薬開発</li> <li>○各種精神疾患の動物モデル作製および病態解明</li> <li>○健康食品・サプリメント・漢方製剤のストレス関連疾患改善作用の解明</li> <li>○薬物依存症の病態解明および有効な治療薬の開発</li> <li>○エビデンスに基づく医薬品適正使用法に関する研究</li> <li>○薬剤師による服用指導の疾患改善における有用性についての科学的検証</li> </ul>

教育研究分野	教 育 研 究 内 容
医療教育統合開発センター 薬学教育部門	<p>医歯薬学部を通してこれからの医療で薬剤師・薬学者に求められる専門領域を担うため、学生のうちからチーム医療に参画し、臨床薬剤師に必要な知識を教育・研究する。研究テーマは、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○臨床で役立つ薬剤師倫理に関する研究</li> <li>○薬剤師が関与する栄養療法に関する研究</li> <li>○新しい褥瘡治療に関する研究</li> <li>○緩和医療に貢献するための副作用予防対策に関する研究</li> </ul>

## 薬学部創薬科学科

### 医薬品開発科学講座

教育研究分野	教 育 研 究 内 容
創生医薬化学	<p>有機合成化学・有機構造化学を手段に、目的とする生理活性物質構造を予測性ある構造概念をもとに創製し、難治性疾患の基礎研究支援、また新薬開発を目指す基礎研究・教育を実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○構造情報に基づく核内受容体リガンドの創製</li> <li>○遺伝子発現制御物質の創製</li> <li>○天然物をリード化合物とする医薬シードの創出</li> <li>○生命現象解明のための分子プローブの合成と応用</li> <li>○蛋白質機能のケミカルコントロール</li> </ul>
分子薬化学	<p>有機化合物、核酸や生体関連化合物、細菌産生毒素、ビタミン類縁化合物などのヘテロ環化合物の合成、反応、および生理・生理活性などについての教育・研究を行う。研究テーマは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○核酸関連化合物類の合成及び各種生物活性、抗ウイルス・抗腫瘍活性分子設計</li> <li>○抗腫瘍活性フラビン及びデアザフラビン類の合成とこれらをリガンドとするコンピュータドッキングシミュレーションによるタンパクチロシンキナーゼに対する阻害様式の解明</li> <li>○アザプテリジン系抗生物質及びフラビン類縁化合物の合成と抗菌、抗原虫、抗腫瘍活性分子設計</li> <li>○核酸類縁化合物の新規リン酸化及びグリコシル化反応の研究と応用</li> <li>○キサンチンオキシダーゼ阻害作用を有する縮合プリン及びピリミジン類縁化合物の合成と活性分子設計</li> <li>○ハイブリッドステロイドヘテロ環化合物の合成と薬理活性に関する研究</li> </ul>
生薬化学	<p>生薬や機能性食品として利用される植物資源について、利用の基礎となる成分の化学を中心に、教育・研究を行う。研究テーマは、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生理活性天然有機化合物の化学構造研究</li> <li>○生薬・食品中の対微生物作用物質の研究</li> <li>○漢方処方の有効性の化学的基礎付けに関する研究</li> <li>○植物培養細胞による有用物質の生産に関する研究</li> </ul>
生体機能性天然物化学	<p>天然素材の機能性開発および機能性天然有機化合物の生体内での活性本体の探究に関する教育・研究を行う。研究テーマは、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○機能性天然物の生体利用性に関する研究</li> <li>○脳神経細胞又は腸管免疫系を賦活化する天然物の探索研究</li> <li>○機能性食品素材の有効性およびリスク評価に関する研究</li> <li>○プレバイオティクス様作用を有する天然素材の開発研究</li> </ul>

教育研究分野	教 育 研 究 内 容
合成薬品製造学	<p>創薬を指向した分子設計と医薬品合成のためのプロセス化学および精密合成化学反応の開発とその医薬分子創製への応用，および合成化合物と生理活性との相関に関する研究教育を行う。研究テーマは，</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新しい反応と合成法の開発に関する基礎的研究</li> <li>○天然物の合成に関する研究</li> <li>○化学構造と生理活性との相関研究</li> <li>○抗がん・アレルギーおよび希少疾病治療薬候補物質の創出と動物試験を含む評価</li> <li>○ケミカルバイオロジー的手法による創薬ターゲットの探索</li> </ul>
生体膜機能生化学	<p>生体膜は生命の場です。生体膜で起こる様々な現象を共に見つけ、命が育まれる過程を共に学びましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○グルタミン酸の化学伝達機構</li> <li>○アスパラギン酸の化学伝達機構</li> <li>○ATPの化学伝達機構</li> <li>○小胞型神経伝達物質トランスポーターの構造と機能研究</li> <li>○薬物輸送トランスポーターの構造と機能研究</li> <li>○ヒト・トランスポーターの構造・機能研究</li> </ul>
膜蛋白質機能科学	<p>生体膜は生命活動において中心的な役割を果たしています。トランスポーターによる物質輸送に焦点をあてて、生体膜の機能をについて教育・研究を行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小胞型グルタミン酸トランスポーターの分子機構の解析</li> <li>○有機アニオントランスポーターの分子生化学</li> <li>○MATE型薬剤排出トランスポーターの薬剤排出機構の解析</li> <li>○P-糖タンパク質の構造機能相関</li> </ul>
分子微生物学	<p>人類の最大の死亡原因である微生物感染症の治療と予防をテーマに教育・研究を行っている。特に、薬剤耐性菌における耐性の分子メカニズムの解明、耐性菌を退治するための新規医薬品の開発等を目指して、次のようなテーマで研究を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○薬剤耐性菌における耐性機構の分子生物学的研究</li> <li>○薬剤耐性菌にも有効な新規抗菌薬・予防薬の開発</li> <li>○薬剤耐性系阻害薬（耐性抑制薬）の開発</li> <li>○薬剤耐性菌による院内感染の対策</li> </ul>
ゲノム応用微生物学	<p>ゲノム情報を駆使して、微生物の生命維持機構，特にイオン輸送を介した環境適応，抗菌薬耐性などについて教育・研究を行う。研究テーマは，</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○薬剤排出ポンプの機能の分子機構に関する研究</li> <li>○細胞膜におけるエネルギー転換に関する研究</li> <li>○食中毒菌の環境適応に関する研究，等。</li> </ul>
膜輸送分子生化学	<p>主にヒトにおける膜タンパク質をターゲットとして。ゲノミクス・プロテオミクスの最新技術を駆使して次のようなテーマで研究を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○薬物排出の最終段階を担う新規 Organic Cation 輸送体の構造と機能に関する研究</li> <li>○タバコ蛾の新規輸送体の構造と機能に関する研究</li> <li>○薬物輸送体の機能調節因子に関する研究</li> </ul>

教育研究分野	教 育 研 究 内 容
医薬品機能分析学 及び 生物機能分析化学	<p>分析化学を基礎とした新しい分子イメージング臨床診断装置開発と分子イメージングプローブの創薬研究を行っている。また、生体内に存在する微量元素の分子生物学、生理化学研究（メタロミクス）に取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○複数分子同時イメージング装置(GREI)開発と応用研究</li> <li>○ガンや難治性疾患の新規放射性医薬品と分子プローブの創薬研究</li> <li>○新規蛍光性機能分子の創製とイメージングに関する研究</li> <li>○生体微量元素の生体反応や輸送メカニズムに関する分子生物学的研究</li> <li>○汚染土壌の環境浄化（ファイトレメディエーション）に関する研究</li> <li>○超高感度多元素質量分析法(ECRIS-MS)の開発と応用に関する研究</li> <li>○人工固体酵素の開発と応用に関する研究</li> </ul>
薬品構造解析学	<p>医薬品や生体関連物質および環境汚染物質などの分析法，これらの微量分析における同定や定量法などについて研究・教育を行う。研究テーマは，</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○環境汚染物質の分析法に関する研究</li> <li>○医薬品の微量同定法に関する研究</li> <li>○生体関連の金属キレートの機能とその応用</li> </ul>

平成22年度 開講科目(専門教育科目)

I 専門基礎科目

授業科目	教員	単位		配当年次	薬学科	創薬科学科	備考
		前期	後期				
物理化学	井上, 勝	2		1	専門基礎	専門基礎	
有機化学Ⅰ	竹内, 佐々木	2		1	専門基礎	専門基礎	旧科目名: 有機化学
生物化学Ⅰ	根岸, 土屋, 有元	2		1	専門基礎	専門基礎	旧科目名: 細胞生物学
生理学	上原 孝		2	1	専門基礎	専門基礎	
生物化学Ⅱ	岡本, 表		2	1	専門基礎	専門基礎	旧科目名: 生理化学Ⅰ
生物化学Ⅲ	森山, 表	2		2	専門基礎	専門基礎	旧科目名: 生理化学Ⅱ (病態生化学を含む。)
生物統計学	有元, 黒田	2		2	専門基礎	専門基礎	旧科目名: 生物学的検定法

II 専門科目

授業科目	教員	単位		配当年次	薬学科	創薬科学科	備考
		前期	後期				
無機薬化学	永松	1		1	選択Ⅰ	選択Ⅰ	
薬用植物学	波多野, 谷口	2		1	選択Ⅱ	選択Ⅰ	
薬品物理化学Ⅰ	勝, 井上		2	1	選択Ⅰ	選択Ⅰ	
有機化学Ⅱ	宮地, 佐々木		2	1	選択Ⅰ	選択Ⅰ	旧科目名: 有機薬化学Ⅰ
生薬学Ⅰ	波多野, 谷口		2	1	選択Ⅰ	選択Ⅰ	
微生物学	土屋, 黒田, 小川		2	1	選択Ⅰ	選択Ⅰ	
医療薬学入門	北村, 四宮, 他各教員		1	1	選択Ⅱ	—	
創薬科学入門	表, 小川, 他各教員		1	1	—	選択Ⅱ	
薬品物理化学Ⅱ	勝, 井上	2		2	選択Ⅰ	選択Ⅰ	
薬品分析学Ⅰ	榎本, 御船	2		2	選択Ⅰ	選択Ⅰ	
有機化学Ⅲ	竹内, 宮地	2		2	選択Ⅰ	選択Ⅰ	旧科目名: 有機薬化学Ⅱ
生薬学Ⅱ	波多野, 谷口	2		2	選択Ⅰ	選択Ⅰ	旧科目名: 生薬学Ⅱ (漢方薬学を含む。)
生物化学Ⅳ	岡本, 有元, 高橋, 中尾	2		2	選択Ⅰ	選択Ⅰ	旧科目名: 薬品化学Ⅰ
薬剤学	大河原	2		2	選択Ⅰ	選択Ⅰ	旧科目名: 薬剤学Ⅰ
薬効解析学Ⅰ	上原 孝	2		2	選択Ⅰ	選択Ⅰ	旧科目名: 薬物学Ⅰ
感染症治療学	土屋, 黒田, 小川	2		2	選択Ⅰ	選択Ⅰ	旧科目名: 微生物薬品化学 (醗酵化学を含む。)
人体解剖学	大塚 (愛), 田口, 西田, 百田	2		2	選択Ⅰ	選択Ⅱ	
放射薬品学・放射線概論	三好, 中尾, 大塚 (正)	2		2	選択Ⅱ	選択Ⅰ	
生物物理化学	井上		2	2	選択Ⅰ	選択Ⅰ	
薬品分析学Ⅱ	榎本, 岩藤, 御船		2	2	選択Ⅰ	選択Ⅰ	
生物化学Ⅴ	中尾		2	2	選択Ⅰ	選択Ⅰ	旧科目名: 生体情報解析学・細胞情報伝達科学
生体防御機能学Ⅰ	合田, 田中		2	2	選択Ⅰ	選択Ⅰ	旧科目名: 生物薬品製造学Ⅰ (薬品免疫学Ⅰ)
医薬品構造解析学	岩藤		1	2	選択Ⅰ	選択Ⅰ	
製剤学	佐々木		2	2	選択Ⅰ	選択Ⅰ	旧科目名: 医薬品設計学・製剤学
薬効解析学Ⅱ	上原 孝		2	2	選択Ⅰ	選択Ⅰ	旧科目名: 薬物学Ⅱ
衛生薬学Ⅰ	埴岡		2	2	選択Ⅰ	選択Ⅰ	旧科目名: 衛生化学Ⅰ
有機反応化学	加来田		1	2	選択Ⅰ	選択Ⅰ	旧科目名: 医薬品製造学
漢方処方学	伊東		1	2	選択Ⅰ	選択Ⅱ	
コンピュータ化学	加来田		2	2	選択Ⅱ	選択Ⅱ	
癌の生物学	有元, 根岸		2	2	選択Ⅱ	選択Ⅱ	旧科目名: 薬品化学Ⅱ
病理学	荻野		2	2・3	選択Ⅱ	選択Ⅱ	隔年開講: 平成22年度-未開講
薬品製造工学	武藤		2	2・3	選択Ⅱ	選択Ⅱ	隔年開講: 平成22年度-合同開講

授 業 科 目	教 員	単 位		配当年次	薬学科	創薬科学科	備 考
		前期	後期				
内分泌化学	中尾, 景山, 小倉, 杉本		2	3	選択Ⅱ	選択Ⅱ	
生体防御機能学Ⅱ	田中, 合田	1		3	選択Ⅰ	選択Ⅰ	
生物薬剤学	檜垣	2		3	選択Ⅰ	選択Ⅰ	
薬事法規	合葉		1	3	選択Ⅰ	選択Ⅰ	旧科目名：薬事法規
薬事行政	合葉, 御船		1	3	選択Ⅱ	選択Ⅱ	
薬効解析学Ⅲ	杉本		2	3	選択Ⅰ	選択Ⅰ	旧科目名：薬物学Ⅲ
医薬化学Ⅰ	竹内, 佐々木, 西岡	2		3	選択Ⅰ	選択Ⅰ	旧科目名：合成医薬品製造学Ⅰ・医薬化学
衛生薬学Ⅱ	三好	2		3	選択Ⅰ	選択Ⅰ	旧科目名：公衆衛生学
衛生薬学Ⅲ	成松	2		3	選択Ⅰ	選択Ⅱ	旧科目名：衛生化学Ⅱ
医薬品開発学	合葉	1		3	選択Ⅱ	選択Ⅰ	
薬品分析学Ⅲ	榎本, 御船	2		3	選択Ⅱ	選択Ⅱ	
複素環化学	永松	2		3	選択Ⅱ	選択Ⅰ	旧科目名：有機薬化学Ⅲ
機能性天然素材学	伊東	2		3	選択Ⅱ	選択Ⅰ	
衛生薬学Ⅳ	三好		2	3	選択Ⅰ	選択Ⅱ	旧科目名：環境衛生化学
ゲノム創薬学	黒田	1		3	選択Ⅱ	選択Ⅰ	
医薬化学Ⅱ	宮地, 加来田		2	3	選択Ⅱ	選択Ⅰ	
有機合成反応論	竹内, 加来田		2	3	—	選択Ⅰ	
免疫医薬品学	合田, 田中		1	3	—	選択Ⅰ	
バイオ技術演習	有元		1	3	選択Ⅱ	選択Ⅰ	
国際医療保健学	岡本, 高橋 他		2	3	選択Ⅱ	選択Ⅱ	
毒性学	成松		1	3	選択Ⅱ	選択Ⅱ	
基礎薬学系実習Ⅰ	榎本, 御船, 岩藤, 井上, 勝	1		3	必修	必修	前期集中開講
基礎薬学系実習Ⅱ	宮地, 永松, 竹内, 加来田, 西岡, 伊東, 谷口	2		3	必修	必修	前期集中開講
基礎薬学系実習Ⅲ	表, 大塚(正)	1		3	必修	必修	前期集中開講
医療薬学系実習Ⅰ	田中, 合田	1		3	必修	必修	前期集中開講
医療薬学系実習Ⅱ	杉本	1		3	必修	必修	前期集中開講
衛生薬学系実習	中尾, 埴岡, 根岸, 有元, 蜂谷, 鑛山, 黒田, 高橋, 小川		2	3	必修	必修	後期集中開講
医療薬学系実習Ⅲ	佐々木, 檜垣, 大河原, 金, 佐藤, 高山, 黒崎, 合葉		1	3	必修	必修	後期集中開講
薬物治療学Ⅰ	川崎	2		4	選択Ⅰ	選択Ⅱ	
医薬品情報学	綿矢, 金	2		4	選択Ⅰ	選択Ⅱ	
臨床医薬品治療学Ⅰ	金	2		4	選択Ⅰ	選択Ⅱ	
細胞療法・診断学	田中, 合田	2		4	選択Ⅰ	選択Ⅱ	
調剤学	北村, 名倉, 四宮	2		4	選択Ⅰ	—	
コミュニティファーマシー	薬剤師会 非常勤講師	1		4	選択Ⅰ	—	
薬物動態学	檜垣	2		4	選択Ⅰ	—	
臨床病態学Ⅰ	臼井, 他	2		4	選択Ⅰ	—	
総合薬学演習Ⅰ	高山, 他	1		4	選択Ⅱ	—	
有機化学演習Ⅰ	竹内, 他	1		4	選択Ⅱ	—	
実務実習事前教育 1	川崎, 他		1	4	必修	—	
実務実習事前教育 2	四宮, 他		2	4	必修	—	
実務実習事前教育 3	高山, 他		2	4	必修	—	
実務実習事前教育 4	名倉, 他		2	4	必修	—	
実務実習事前教育 5	北村(佳), 他		1	4	必修	—	
薬物治療学Ⅱ	高山	2		4	選択Ⅰ	選択Ⅱ	
病院薬学	松永	2		4	選択Ⅰ	—	

授 業 科 目	教 員	単 位		配当年次	薬学科	創薬科学科	備 考
		前期	後期				
臨床医薬品治療学Ⅱ	黒崎	2		4	選択Ⅰ	—	
臨床薬学	川崎, 黒崎, 高山	2		4	選択Ⅰ	—	
診断治療学	小倉, 大西		2	4	選択Ⅰ	—	
臨床薬物動態学	合葉	2		4	選択Ⅰ	—	
臨床病態学Ⅱ	草地, 他	2		4	選択Ⅰ	—	
総合薬学演習Ⅱ	高山, 他		1	4	選択Ⅱ	—	
薬学国際交流演習	岡本, 他		2	4	—	選択Ⅱ	
応用薬学研究演習	各教員		2	4	—	必修	
卒業論文実習(卒業制作物を含む。)	各教員		10	4	—	必修	
病院実務実習	黒崎(コーディネーター)		10	5	—	必修	
薬局実務実習	黒崎(コーディネーター)		10	5	—	必修	
臨床薬学演習Ⅰ	名倉(コーディネーター)		1	5・6	選択Ⅱ	—	
臨床薬学演習Ⅱ	—		1	5・6	選択Ⅱ	—	平成22年度—未開講
臨床薬学演習Ⅲ	合田(コーディネーター)		1	5・6	選択Ⅱ	—	
臨床薬学演習Ⅳ	—		1	5・6	選択Ⅱ	—	平成22年度—未開講
卒業論文実習(卒業制作物を含む。)	各教員		12	5・6	—	必修	

### Ⅲ 専門科目(卒業要件外科目)

授 業 科 目	教 員	単 位		配当年次	薬学科	創薬科学科	備 考
		前期	後期				
薬学セミナーⅠ	黒田, 他各教員		1	1	卒業要件外	卒業要件外	
S G D入門	檜垣, 名倉, 埴岡, 杉本	1		1	卒業要件外	—	
コミュニケーション入門Ⅰ	表, 伊東, 加来田, 他	1		1	—	卒業要件外	旧科目名: コミュニケーション入門
医薬品開発序論Ⅰ	竹内, 他		1	1	—	卒業要件外	旧科目名: 医薬品開発序論
医薬品開発序論Ⅱ	土屋, 他		1	1	—	卒業要件外	
基礎遺伝学	根岸		2	1	卒業要件外	卒業要件外	
分子構造化学入門	勝		1	1	卒業要件外	卒業要件外	
有機化学基礎演習Ⅰ	宮地		1	1	卒業要件外	卒業要件外	
薬学セミナーⅡ	黒田, 他各教員		1	2	卒業要件外	卒業要件外	
有機化学基礎演習Ⅱ	竹内		1	2	卒業要件外	卒業要件外	
ケミカル・バイオハザード学	黒田, 竹内, 伊東, 小川		1	2	卒業要件外	卒業要件外	
薬学研究のフロンティア	榎本, 竹内		2	2	卒業要件外	卒業要件外	
コミュニケーション入門Ⅱ	竹内, 黒田, 他		1	3	—	卒業要件外	
分子細胞生物学	森山, 表	2		3	卒業要件外	卒業要件外	
癌薬物治療学	有元	1		3	卒業要件外	卒業要件外	
バイオインフォマティクス入門	中尾	1		3	卒業要件外	卒業要件外	
薬物治療投与設計序論	黒崎, 川崎		1	3	卒業要件外	卒業要件外	
薬剤師倫理学	名倉, 北村, 四宮	1		3	卒業要件外	—	
創薬科学英語	黒田, 他		2	3	—	卒業要件外	
薬学応用実習	各教員		2	3	卒業要件外	—	
卒業論文基礎実習	各教員		2	3	—	卒業要件外	
漢方処方応用学	谷口, 名倉, 波多野	1		3・4	卒業要件外	卒業要件外	前期集中開講
薬品分析学・薬品物理化学演習	御船, 勝, 他		1	4	卒業要件外	—	後期集中開講
卒業研究準備実習	各教員		4	4	卒業要件外	—	

# 単位修得要領

単位修得に関しては各自十分注意し余裕のある単位修得に努められたい。もし不注意により卒業できない等のことがある場合の責任は学生自身が負わなければならない。したがって単位修得の責任は自らにあることを自覚し単位を修得されたい。

## 1. 教養教育科目

### (1) 平成16年度以降入学者

別表第1(平成20年度・平成21年度入学者)、別表第1-5(平成18年度入学者)、別表第1-6(平成19年度入学者)または別表第1-4(平成15~17年度入学者)に示す科目(30単位以上)を修得することとする。

## 2. 専門教育科目

### (1) 平成18年度以降入学者

薬学科にあつては、別表第2に示す配当年次にしたが、専門基礎科目10単位、専門科目157単位(必修科目49単位、選択科目Ⅰ82単位、選択科目Ⅱ26単位)計167単位以上を修得することとする。

創薬科学科にあつては、別表第3に示す配当年次にしたが、専門基礎科目10単位、専門科目98単位(必修科目21単位、選択科目Ⅰ58単位、選択科目Ⅱ19単位)計108単位以上を修得することとする。

### (2) 平成16~17年度入学者

別表第2-5に示す配当年次にしたが、専門基礎科目12単位、専門科目98単位(必修科目20単位、コア科目68単位、選択科目10単位)計110単位以上を修得することとする。

## 3. 履修手続きの方法

### (1) 履修登録

学生は、学年の始めに示される授業時間割表及びシラバス等により立てた履修計画に基づき、各期(前期、後期)に履修しようとするすべての授業科目を履修登録しなければならない。履修登録は、指定された期間中に学内のコンピュータ端末を利用して各自行うこととする(履修登録のない科目の単位修得は認められない)。履修登録後は、登録された履修科目が各自の計画どおり登録されているか必ず確認すること。

なお、教養教育科目の1年間に履修できる単位数の上限は30単位である。(TOEIC-IP等により認定された単位数は、これに含まない。)

### (2) 履修科目の変更及び中途よりの履修

履修登録後は履修科目の変更及び中途よりの履修は原則として認めない。

但し、登録内容の誤りや上限単位数を超過などで、履修科目の追加又は変更を希望する場合は、指定された期間中に限り学内のコンピュータ端末を利用して変更等することができる。

### (3) 履修科目の取消

履修登録した科目を途中で履修することができなくなった場合は、直ちにその科目の担当教員に申し出て取り消しの承諾を受けること。

また、定められた期間に教務学生係へ申し出て、「履修登録科目の取り消し願」を記入のうえ提出する

こと。

#### 4. 単位認定及び成績評価

授業科目の単位認定は、試験、レポート及び平素の成績を考慮して担当教員が判定する。

授業は、講義、演習、実験または実習のいずれかの方法により又はこれらの併用により行われる。授業科目は、1単位当たり45時間の学修を必要とする内容をもって構成されることを標準とし、授業の方法による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数が定められている。

授業の種類・方法		授業による学修時間	授業以外の学修時間 (予習・復習等)
教養教育科目	講義	15時間	30時間
	演習	15～30時間	30～15時間
	実験	45時間	0時間
	実習	30時間	15時間
専門教育科目	講義	15時間	30時間
	演習	15～30時間	30～15時間
	実験	45時間	0時間
	実習	30～45時間	15～0時間
	講義及び演習の併用	15時間	30時間
	卒業論文実習等、指導教員による研究指導に当たる授業	各指導教員の指導に従うものとする。	

また、成績評価は、本学部の定める成績評価基準に基づき行い、下表のとおり表記する。なお、履修登録をしたにもかかわらず、試験を受けていない等で成績評価の資料を欠く場合については、F（不可：0点）とする。

#### 成績の評語及びグレード・ポイント（G P）

H19 以前入学者	H20 以降入学者		評点	基準等	
	評語	G P			
優	A+	4	100～90点	合格（単位修得）	
	A	3	89～80点		
	良	B	2		79～70点
	可	C	1		69～60点
不可	F	0	59点以下	不合格	
/	W	対象外	付さない	履修登録後、履修取消期間等に取消を行った場合	
認定	認定	対象外	付さない	既修得単位による単位認定等を受けた場合	
修了	修了	対象外	付さない	授業の特殊性に鑑み、評点により評価しがたい場合、又は一定の到達度をもって評価し単位とする場合	
/	未修得	対象外	付さない	修了の評語をもって合格の評価とする授業科目で、不合格（単位を授与しない）とする場合	

おいて、平成20年度以降入学者については、次の算式によりGPAを算出し、修得済み単位及びそ

の成績評価と併せて通知する。

(履修登録した授業科目の単位数×当該授業科目のG P) の総和

$$G P A = \frac{\text{履修登録した授業科目の単位数の総和}}{\text{履修登録した授業科目の単位数の総和}}$$

## 5. 補 講

担当教員が十分な講義回数を確保できないと判断した場合は、指定された以外の曜日・時限(休業中・水曜日午後等)に補講を行うことがある。

## 6. 試 験

### (1) 受験心得

受験にあたっては、次の各事項に留意してください。

- ① 試験中は監督者の指示に従ってください。
- ② 座席は監督者の指示に従ってください。
- ③ 机の上に置くものは、学生証、筆記用具、その他特に許可したものに限ります。それ以外のものはカバン等に入れて、座席の下に置いてください。特に、携帯電話・PHS等は、必ず電源を切って入れてください。
- ④ 机の下の物入れには何も置かないでください。  
隣の机の下の物入れや椅子にもものを置くなどした場合は、動かすことがあります。
- ⑤ 受験中は、必ず学生証を机の上に置いてください。
- ⑥ 解答用紙には、所属学部等名、入学年、番号及び氏名等の必要事項をできるだけ万年筆又はボールペンで記入してください。
- ⑦ 退室は試験開始後20分を超えてから認めます。ただし、静かに退室してください。  
また、試験開始後20分を超えてからの入室は認めません。
- ⑧ 答案は教卓上に提出するか、又は監督者に直接手渡ししてください。自己の机の上に置いて退室すると無効になる場合があります。
- ⑨ 試験中に不正行為と疑わしい行為を行った者は、この試験を無効とすることがあります。
- ⑩ 試験において監督者の指示に従わない者、及び不正行為を行った学生は、学則第58条(大学院学則49条)により、厳重な懲戒処分を行います。

※ 厳重な懲戒処分とは、退学又は3ヶ月を超える停学を指します。

### (2) 追試験について

疾病その他やむを得ない事故により受験の延期を希望する者は、予め所定の書式により受験延期願を提出し、その理由が認められた場合に限り追試験を受験できる。その場合は改めて追試験受験願を提出すること。

なお、緊急事態により事前に願書が提出できない場合は、事態の回復後速やかにその旨教務学生係(教養教育科目については、学務企画課教務第二係)に申し出て指示を受けること。

## 7. 平成16~17年度入学者の卒業論文実習の履修資格について

- (1) 平成16~17年度入学者(病院・保険薬局実務実習舎)

3年次末までに、教養教育科目所定の30単位以上、専門基礎科目12単位以上、専門科目78単位以上、計120単位以上を修得した者に限り履修することができる。

## 8. 平成18年度以降入学者の進級要件等について

### I 薬学科

(1) 第3年次への進級（基礎薬学系実習Ⅰ～Ⅲ、衛生薬学系実習、医療薬学系実習Ⅰ～Ⅲ 履修要件）

2年次末までに、教養教育科目26単位以上、専門基礎科目8単位以上、専門科目30単位（選択科目Ⅰ30単位）以上、計64単位以上を修得した者とする。

(2) 第4年次への進級（実務実習事前教育1～5 履修要件）

3年次末までに、教養教育科目所定の30単位以上、専門基礎科目10単位以上、専門科目64単位（必修科目9単位、選択科目Ⅰ50単位、選択科目Ⅱ5単位）以上、計104単位以上を修得した者とする。

(3) 第5年次への進級（卒業論文実習・病院実務実習・薬局実務実習 履修要件）

4年次末までに、教養教育科目所定の30単位以上、専門基礎科目10単位以上、専門科目112単位（必修科目17単位、選択科目Ⅰ78単位、選択科目Ⅱ17単位）以上、計152単位以上を修得した者とする。

### II 創薬科学科

(1) 第3年次への進級（基礎薬学系実習Ⅰ～Ⅲ、衛生薬学系実習、医療薬学系実習Ⅰ～Ⅲ 履修要件）

2年次末までに、教養教育科目26単位以上、専門基礎科目8単位以上、専門科目30単位（選択科目Ⅰ30単位）以上、計64単位以上を修得した者とする。

(2) 第4年次への進級（卒業論文実習・応用薬学研究演習 履修要件）

3年次末までに、教養教育科目所定の30単位以上、専門基礎科目10単位以上、専門科目64単位（必修科目9単位、選択科目Ⅰ50単位、選択科目Ⅱ5単位）以上、計104単位以上を修得した者とする。

## 9. 修学指導並びに退学勧告について

病気その他やむを得ない事情が無いにもかかわらず、入学後、各年次終了時の全修得単位数が、下表に示す基準に満たない者については、学力・学修態度の改善の為、指導教員による修学指導を行う。

上記指導にもかかわらず、入学後5年（薬学科においては7年）経過（休学期間を除く）しても、卒業論文実習の履修資格を得られる見込みのない者については、退学を勧告する。

なお、本規定は、平成15年度入学者から適用する。

〈平成15～17年度入学者の年次別修得単位基準〉

年次	修得単位
1年次	30単位以上
2年次	70単位以上
3年次	上記7に示す卒業論文実習履修資格単位数

〈平成18年度以降入学者の年次別修得単位基準〉

### I 薬学科

年次	修得単位

1 年 次	30 単位以上
2 年 次	上記 8 に示す薬学科第 3 年次進級要件単位数
3 年 次	上記 8 に示す薬学科第 4 年次進級要件単位数
4 年 次	上記 8 に示す薬学科第 5 年次進級要件単位数

## II 創薬科学科

年 次	修得単位
1 年 次	30 単位以上
2 年 次	上記 8 に示す創薬科学科第 3 年次進級要件単位数
3 年 次	上記 8 に示す創薬科学科第 4 年次進級要件単位数

### 10. 平成 18 年度以降入学者の要件外科目の受講について

薬学部で開講されている他学科の専門教育科目を要件外科目として受講し、単位を修得するためには、次の事項を守らなければならない。

- 1 各学年で取得できる要件外科目数は以下のとおりである。  
ただし、他学科の必修科目は受講できない。
- 2 受講できる科目は、その学生と同学年を対象として開講されている科目、あるいはその学生より低学年の学生を対象として開講されている科目に限る。
- 3 受講に際しては、授業担当教員の受講許可を得なければならない。

*科目数	薬 学 科	1～2年次	取得を認めない。
		3～4年次	1セメスターに1科目まで認める。
		5～6年次	1セメスターに2科目まで認める。
	創薬科学科	1～2年次	取得を認めない。
		3 年 次	1セメスターに1科目まで認める。
		4 年 次	1セメスターに2科目まで認める。

### 11. 副専攻コースについて

岡山大学では、平成 17 年度以降の入学生を対象に「副専攻コース\*」を開設しているが、薬学部学生は 4 セメスター以降の日程が非常に過密なため、副専攻コースの履修を認めない。

\*「副専攻コース」とは、各学部が編成する教育課程のほか、学生が所属する学部及び学科又は課程の専攻に係る分野において学習した知識をさらに広い視野のもとで有効に活かせることのできる能力を養うための教育課程を指します。

## 薬学部成績評価基準

平成20年9月24日  
教 授 会

岡山大学学則第42条の2の規程に基づき、本学部の成績評価基準について、次のとおり定める。

- 1 教育目標に対する学習者の到達度を見るため成績評価が必要であり、その目標と評価方法を個々の授業毎に講義要覧（シラバス）に明記する。
- 2 授業科目の単位認定は、試験、レポート、及び平素の成績を考慮して担当教員が判定する。
- 3 授業形態による評価方法の指針は、次のとおりとする。

講義	中間テスト、期末テスト又は小テストを適宜行い、それらの結果、出欠状況、講義中の発言、途中で課せられるレポート等を総合して評価する。
実習（薬学部内）	テスト、レポート、実習態度（実習書に記載の注意点の遵守など）、出欠状況等を総合して評価する。
実習（病院・保険薬局）	レポート、実習態度（実習書に記載の注意点の遵守など）、出欠状況等を総合して評価する。

- 4 成績評価に関する学生の質問及び疑問等には、適切に対応するものとする。







# 創薬科学科学生が国家試験受験資格を取得するための指定科目

網掛け部は、指定科目を示し、「実務実習事前教育1～5」を履修する前提条件となる。

## I 専門基礎科目

授 業 科 目	単 位		配当年次
	必修	選択	
物 理 化 学		2	1
有 機 化 学 I		2	1
生 物 化 学 I		2	1
生 理 学		2	1
生 物 化 学 II		2	1
生 物 化 学 III		2	2
生 物 統 計 学		2	2
合 計		14	
卒 業 要 件 単 位		10	

## II 専門科目

授業科目	単 位				配当年次
	必修科目	選択科目 I	選択科目 II	卒業要件外 (薬学科配当科目)	
無 機 薬 化 学		1			1
薬 用 植 物 学		2			1
薬 品 物 理 化 学 I		2			1
有 機 化 学 II		2			1
生 薬 学 I		2			1
微 生 物 学		2			1
医 療 薬 学 入 門			1		1
創 薬 科 学 入 門			1		1
薬 品 物 理 化 学 II		2			2
薬 品 分 析 学 I		2			2
有 機 化 学 III		2			2
生 薬 学 II		2			2
生 物 化 学 IV		2			2
薬 剤 学		2			2
薬 効 解 析 学 I		2			2
感 染 症 治 療 学		2			2
人 体 解 剖 学			2		2
放 射 薬 品 学・放 射 線 概 論		2			2
生 物 物 理 化 学		2			2
薬 品 分 析 学 II		2			2
生 物 化 学 V		2			2
生 体 防 御 機 能 学 I		2			2
医 薬 品 構 造 解 析 学		1			2
製 剤 学		2			2
薬 効 解 析 学 II		2			2
衛 生 薬 学 I		2			2
有 機 反 応 化 学		1			2
漢 方 処 方 学			1		2
コ ン ピ ュ ー タ 化 学			2		2
癌 の 生 物 学			2		2

授業科目	単位				配当年次
	必修科目	選択科目 I	選択科目 II	卒業要件外 (薬学科配当科目)	
病 理 学			2		2・3
内 分 泌 化 学			2		2・3
薬 品 製 造 工 学			2		2・3
生 体 防 御 機 能 学 II		1			3
生 物 薬 剂 学		2			3
薬 事 法 規		1			3
薬 効 解 析 学 III		2			3
医 薬 化 学 I		2			3
衛 生 薬 学 II		2			3
衛 生 薬 学 III			2		3
医 薬 品 開 発 学		1			3
薬 品 分 析 学 III			2		3
複 素 環 化 学		2			3
機 能 性 天 然 素 材 学		2			3
衛 生 薬 学 IV			2		3
ゲ ノ ム 創 薬 学		1			3
医 薬 化 学 II		2			3
薬 事 行 政			1		3
バ イ オ 技 術 演 習		1			3
国 際 医 療 保 健 学			2		3
毒 性 学			1		3
免 疫 医 薬 品 学		1			3
有 機 合 成 反 応 論		2			3
基 礎 薬 学 系 実 習 I	1				3
基 礎 薬 学 系 実 習 II	2				3
基 礎 薬 学 系 実 習 III	1				3
医 療 薬 学 系 実 習 I	1				3
医 療 薬 学 系 実 習 II	1				3
衛 生 薬 学 系 実 習	2				3
医 療 薬 学 系 実 習 III	1				3
薬 物 治 療 学 I			2		4
医 薬 品 情 報 学			2		4
臨 床 医 薬 品 治 療 学 I			2		4
細 胞 療 法 ・ 診 断 学			2		4
調 剤 学				2	薬学科4年次
コ ミ ュ ニ ティ フ ァ ー マ シ ー				1	薬学科4年次
薬 物 動 態 学				2	薬学科4年次
臨 床 病 態 学 I				2	薬学科4年次
総 合 薬 学 演 習 I					
有 機 化 学 演 習 I					
実 務 実 習 事 前 教 育 1	1				
実 務 実 習 事 前 教 育 2	2				
実 務 実 習 事 前 教 育 3	3				
実 務 実 習 事 前 教 育 4	4				
実 務 実 習 事 前 教 育 5	5				
薬 学 国 際 交 流 演 習			2		4
薬 物 治 療 学 II			2		4
応 用 薬 学 研 究 演 習	2				4

授業科目	単位				配当年次
	必修科目	選択科目Ⅰ	選択科目Ⅱ	卒業要件外 (薬学科配当科目)	
病 院 薬 学				2	薬学科4年次
臨 床 医 薬 品 治 療 学Ⅱ				2	薬学科4年次
臨 床 薬 学				2	薬学科4年次
診 断 治 療 学				2	薬学科4年次
臨 床 薬 物 動 態 学				2	薬学科4年次
臨 床 病 態 学Ⅱ				2	薬学科4年次
総 合 薬 学 演 習Ⅱ					
病 院 実 務 実 習					
薬 局 実 務 実 習					
臨 床 薬 学 演 習Ⅰ					
臨 床 薬 学 演 習Ⅱ					
臨 床 薬 学 演 習Ⅲ					
臨 床 薬 学 演 習Ⅳ					
卒業論文実習(卒業制作物を含む。)	10				4
総 合 薬 学 演 習Ⅰ					
有 機 化 学 演 習Ⅱ					
総 合 薬 学 演 習Ⅲ					
合 計	21	67	36		
卒 業 要 件 単 位	21	58	19		

指定科目(76単位)(39科目)\*

\* 創薬科学科では開講されていない単位(科目)19単位(10科目)を含む

## 外部検定試験等による単位認定基準に関する取扱要項

〔平成16年4月1日〕  
学 長 裁 定

改正 平成18年 2月22日  
平成19年 1月24日  
平成19年 2月28日  
平成19年12月 5日  
平成20年 4月16日  
平成21年 1月28日

(趣旨)

第1条 この要項は、岡山大学における教養教育科目の外国語科目に係る外部検定試験等による単位認定に関する基準等について、必要な事項を定めるものとする。

(対象科目・外部検定試験等)

第2条 単位認定の対象となる授業科目及び外部検定試験等は、別表第1から別表第6のとおりとする。

- 2 大学間交流協定に基づく語学研修の学修成果に係る取扱いは、別表第7のとおりとする。
- 3 前2項において、平成10年度以前入学者については、平成11年度入学者に係る取扱いを準用することができる。

附 則

この要項は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この要項は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 第2条第2項に係る取扱いは、平成18年度に実施される語学研修プログラムより適用する。

附 則

この要項は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成20年4月16日から施行する。

附 則

この要項は、平成21年1月28日から施行する。

※ 別表第4～別表第6（平成17年度以前入学者が対象）については、掲載を省略していますので、必要な方は薬学部教務学生係へお申し出ください。

別表第1の1 (平成20年度以降入学者適用)

科 目	認 定 の 対 象 と す る 外 部 検 定 試 験 等	合 格 基 準	認 定 す る 授 業 科 目 ・ 単 位 数
英 語	【英語関係Ⅰ】 Test of English for International Communication (TOEIC, IPを含む)	470～585点 (OT3)	別表第1附表-1の③から⑥の中より選択 2単位
		590～725点 (OT2)	別表第1附表-1の③から⑥の中より選択 4単位
	実用英語技能検定 (英検) 国際連合公用語・英語検定試験 (国連英検) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・PBT, ITPを含む) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・CBT) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・iBT)	準1級 B級 500点以上 173点以上 61点以上	別表第1附表-2の①から⑥の中より 選択 4単位
	【英語関係Ⅱ】 Test of English for International Communication (TOEIC, IPを含む)	730点以上 (OT1)	
実用英語技能検定 (英検) 国際連合公用語・英語検定試験 (国連英検) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・PBT, ITPを含む) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・CBT) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・iBT)	1級 A級 550点以上 213点以上 79点以上	別表第1附表-2の①から⑥の中より 選択 8単位	
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験 (独検)		5級 4級 3級以上
フランス語	実用フランス語技能検定試験 (仏検)	5級	フランス語初級Ⅰ (文法) 又は フランス語初級Ⅰ (読本) 2単位
		4級	フランス語初級Ⅰ (文法) フランス語初級Ⅰ (読本) フランス語初級Ⅱ (文法) フランス語初級Ⅱ (読本) フランス語初級Ⅰ (総合) } 4単位
		3級以上	フランス語初級Ⅰ (文法) フランス語初級Ⅰ (読本) フランス語初級Ⅱ (文法) フランス語初級Ⅱ (読本) フランス語初級Ⅰ (総合) フランス語初級Ⅱ (総合) フランス語中級 } 8単位

別表第1の2（平成20年度以降入学者適用）

科目	認定の対象とする 外部検定試験等	合格基準	認定する授業科目・単位数
中国語	(HSK)	基礎1級	中国語初級Ⅰ（文法） 又は 中国語初級Ⅰ（読本） 2単位
		基礎2級	中国語初級Ⅰ（文法） 中国語初級Ⅰ（読本） 中国語初級Ⅱ（文法） 中国語初級Ⅱ（読本） } 4単位
		基礎3級及び 初中等1級以上	中国語初級Ⅰ（文法） 中国語初級Ⅰ（読本） 中国語初級Ⅱ（文法） 中国語初級Ⅱ（読本） 中国語中級 } 8単位
韓国語	韓国語能力試験	1級	韓国語初級Ⅰ（文法） 韓国語初級Ⅰ（読本） 韓国語初級Ⅱ（文法） 韓国語初級Ⅱ（読本） 韓国語初級Ⅰ（総合） } 4単位
		2級以上	韓国語初級Ⅰ（文法） 韓国語初級Ⅰ（読本） 韓国語初級Ⅱ（文法） 韓国語初級Ⅱ（読本） 韓国語初級Ⅰ（総合） 韓国語初級Ⅱ（総合） 韓国語中級 } 8単位
スペイン語	スペイン語技能検定	6級	スペイン語初級Ⅰ（文法） 又は スペイン語初級Ⅰ（読本） 2単位
		5級	スペイン語初級Ⅰ（文法） スペイン語初級Ⅰ（読本） スペイン語初級Ⅱ（文法） スペイン語初級Ⅱ（読本） } 4単位
		4級以上	スペイン語初級Ⅰ（文法） スペイン語初級Ⅰ（読本） スペイン語初級Ⅱ（文法） スペイン語初級Ⅱ（読本） スペイン語中級 } 8単位
イタリア語	実用イタリア語検定	5級	イタリア語初級Ⅰ（文法） 又は イタリア語初級Ⅰ（読本） 2単位
		4級	イタリア語初級Ⅰ（文法） イタリア語初級Ⅰ（読本） イタリア語初級Ⅱ（文法） イタリア語初級Ⅱ（読本） } 4単位
		3級以上	イタリア語初級Ⅰ（文法） イタリア語初級Ⅰ（読本） イタリア語初級Ⅱ（文法） イタリア語初級Ⅱ（読本） イタリア語中級 } 8単位

備考 1 成績の取り扱いは「認定」とする。

2 外部検定試験等による単位認定は、一外国語につき8単位を限度とする。

3 英語に関しては、【英語関係Ⅰ】と【英語関係Ⅱ】は重複して単位認定の対象とする。

4 外部検定試験等による単位認定は、同一科目名の繰り返し履修が可能な授業科目を除いて、一つの授業科目について1回限りとする。

別表第1附表-1（平成20年度以降入学者適用）

項番	授業科目名	備考
①	経済実用英語 英語（工学部）	・経済学部についてはOT1、OT2及びOT3（470点以上）の認定対象科目に含める ・工学部についてはOT1（730点以上）の認定対象科目に含める
②	英語（ネイティブ）	・薬学部についてはOT2（590点～725点）の認定対象科目に含める ・工学部についてはOT2（590点～725点）の認定対象科目に含める
③	英語（オラコン）	OT1  OT2  OT3
④	英語（作文・文法）	
⑤	英語（読解）	
⑥	英語（検定）	

別表第1附表-2（平成20年度以降入学者適用）

項番	授業科目名
①	英語（教育学部） 英語（法学部） 経済実用英語 英語（理学部） 英語（基礎医用英語） 英語（工学部） 英語（環境理工1） 英語（環境理工2） 英語（環境理工3） 英語（環境理工4） 英語（MPコース）
②	英語（ネイティブ）
③	英語（オラコン）
④	英語（作文・文法）
⑤	英語（読解）
⑥	英語（検定）

別表第2の1 (平成19年度入学者適用)

科 目	認 定 の 対 象 と す る 外 部 検 定 試 験 等	合 格 基 準	認 定 す る 授 業 科 目 ・ 単 位 数
英 語	【英語関係Ⅰ】 Test of English for International Communication (TOEIC, ITPを含む)	470～585点 (OT3)	別表第2附表-1の③から⑥の中より選択 2単位
		590～725点 (OT2)	別表第2附表-1の③から⑥の中より選択 4単位
	実用英語技能検定 (英検) 国際連合公用語・英語検定試験 (国連英検) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・PBT, ITPを含む) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・CBT) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・iBT)	準1級	} 別表第2附表-2の①から⑥の中より 選択 4単位
		B級	
		500点以上	
		173点以上	
【英語関係Ⅱ】 Test of English for International Communication (TOEIC, ITPを含む)	730点以上 (OT1)	別表第2附表-1の②から⑥の中より選択 6単位	
	実用英語技能検定 (英検) 国際連合公用語・英語検定試験 (国連英検) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・PBT, ITPを含む) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・CBT) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・iBT)	1級	} 別表第2附表-2の①から⑥の中より 選択 8単位
A級			
550点以上			
213点以上			
ド イ ツ 語	ドイツ語技能検定試験 (独検)	5級	ドイツ語初級Ⅰ (文法) 又は ドイツ語初級Ⅰ (読本) 2単位
		4級	ドイツ語初級Ⅰ (文法) ドイツ語初級Ⅰ (読本) ドイツ語初級Ⅱ (文法) ドイツ語初級Ⅱ (読本) ドイツ語初級Ⅰ (総合) } 4単位
		3級以上	ドイツ語初級Ⅰ (文法) ドイツ語初級Ⅰ (読本) ドイツ語初級Ⅱ (文法) ドイツ語初級Ⅱ (読本) ドイツ語初級Ⅰ (総合) ドイツ語初級Ⅱ (総合) ドイツ語中級 } 8単位
フ ラ ン ス 語	実用フランス語技能検定試験 (仏検)	5級	フランス語初級Ⅰ (文法) 又は フランス語初級Ⅰ (読本) 2単位
		4級	フランス語初級Ⅰ (文法) フランス語初級Ⅰ (読本) フランス語初級Ⅱ (文法) フランス語初級Ⅱ (読本) フランス語初級Ⅰ (総合) } 4単位
		3級以上	フランス語初級Ⅰ (文法) フランス語初級Ⅰ (読本) フランス語初級Ⅱ (文法) フランス語初級Ⅱ (読本) フランス語初級Ⅰ (総合) フランス語初級Ⅱ (総合) フランス語中級 } 8単位

別表第2の2（平成19年度入学者適用）

科 目	認 定 の 対 象 と す る 外 部 検 定 試 験 等	合 格 基 準	認 定 す る 授 業 科 目 ・ 単 位 数
中 国 語	漢語水平考試 (HSK)	基礎1級	中国語初級Ⅰ（文法） 又は 中国語初級Ⅰ（読本） 2単位
		基礎2級	中国語初級Ⅰ（文法） 中国語初級Ⅰ（読本） 中国語初級Ⅱ（文法） 中国語初級Ⅱ（読本） } 4単位
		基礎3級及び 初中等1級以上	中国語初級Ⅰ（文法） 中国語初級Ⅰ（読本） 中国語初級Ⅱ（文法） 中国語初級Ⅱ（読本） 中国語中級 } 8単位
韓 国 語	韓国語能力試験	1級	韓国語初級Ⅰ（文法） 韓国語初級Ⅰ（読本） 韓国語初級Ⅱ（文法） 韓国語初級Ⅱ（読本） 韓国語初級Ⅰ（総合） } 4単位
		2級以上	韓国語初級Ⅰ（文法） 韓国語初級Ⅰ（読本） 韓国語初級Ⅱ（文法） 韓国語初級Ⅱ（読本） 韓国語初級Ⅰ（総合） 韓国語初級Ⅱ（総合） 韓国語中級 } 8単位
スペイン語	スペイン語技能検定	6級	スペイン語初級Ⅰ（文法） 又は スペイン語初級Ⅰ（読本） 2単位
		5級	スペイン語初級Ⅰ（文法） スペイン語初級Ⅰ（読本） スペイン語初級Ⅱ（文法） スペイン語初級Ⅱ（読本） } 4単位
		4级以上	スペイン語初級Ⅰ（文法） スペイン語初級Ⅰ（読本） スペイン語初級Ⅱ（文法） スペイン語初級Ⅱ（読本） スペイン語中級 } 8単位
イタリア語	実用イタリア語検定	5級	イタリア語初級Ⅰ（文法） 又は イタリア語初級Ⅰ（読本） 2単位
		4級	イタリア語初級Ⅰ（文法） イタリア語初級Ⅰ（読本） イタリア語初級Ⅱ（文法） イタリア語初級Ⅱ（読本） } 4単位
		3级以上	イタリア語初級Ⅰ（文法） イタリア語初級Ⅰ（読本） イタリア語初級Ⅱ（文法） イタリア語初級Ⅱ（読本） イタリア語中級 } 8単位

備考 1 成績の取り扱いは「認定」とする。

2 外部検定試験等による単位認定は、一外国語につき8単位を限度とする。

3 英語に関しては、【英語関係Ⅰ】と【英語関係Ⅱ】は重複して単位認定の対象とする。

4 外部検定試験等による単位認定は、同一科目名の繰り返し履修が可能な授業科目を除いて、一つの授業科目について1回限りとする。

5 法学部夜間主コースは、別表第2の2に掲げる科目（韓国語、スペイン語及びイタリア語）については、卒業要件に含まれていないため、認定の対象とはなりません。

別表第2附表-1（平成19年度入学者適用）

項番	授業科目名	備考	
①	経済実用英語 英語（工学部）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済学部についてはOT1, OT2及びOT3（470点以上）の認定対象科目に含める</li> <li>・工学部についてはOT1（730点以上）の認定対象科目に含める</li> </ul>
②	英語（ネイティブ）	OT1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬学部についてはOT2（590点～725点）の認定対象科目に含める</li> <li>・工学部についてはOT2（590点～725点）の認定対象科目に含める</li> </ul>
③	英語（オラコン）	OT2	
④	英語（作文・文法）		
⑤	英語（読解）		
⑥	英語（検定）		

別表第2附表-2（平成19年度入学者適用）

項番	授業科目名
①	英語（教育学部） 経済実用英語 英語（理学部） 英語（基礎医用英語） 英語（工学部） 英語（環境理工1） 英語（環境理工2） 英語（環境理工3） 英語（環境理工4） 英語（MPコース）
②	英語（ネイティブ）
③	英語（オラコン）
④	英語（作文・文法）
⑤	英語（読解）
⑥	英語（検定）

別表第3の1 (平成18年度入学者適用)

科 目	認 定 の 対 象 と す る 外 部 検 定 試 験 等	合 格 基 準	認 定 す る 授 業 科 目 ・ 単 位 数
英 語	<b>【英語関係Ⅰ】</b> 実用英語技能検定 (英検) 国際連合公用語・英語検定試験 (国連英検) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・PBT, ITPを含む) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・CBT) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・iBT) Test of English for International Communication (TOEIC, IPを含む)	準1級 B級 500点以上 173点以上 61点以上 586点以上	別表第3附表の①から⑧の中より選択 4単位
	<b>【英語関係Ⅱ】</b> 実用英語技能検定 (英検) 国際連合公用語・英語検定試験 (国連英検) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・PBT, ITPを含む) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・CBT) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・iBT) Test of English for International Communication (TOEIC, IPを含む)	1級 A級 550点以上 213点以上 79点以上 730点以上	別表第3附表の①から⑧の中より選択 8単位
ド イ ツ 語	ドイツ語技能検定試験 (独検)	5級	ドイツ語初級Ⅰ (文法) 又は ドイツ語初級Ⅰ (読本) 2単位
		4級	ドイツ語初級Ⅰ (文法) ドイツ語初級Ⅰ (読本) ドイツ語初級Ⅱ (文法) ドイツ語初級Ⅱ (読本) ドイツ語初級Ⅰ (総合) } 4単位
		3級以上	ドイツ語初級Ⅰ (文法) ドイツ語初級Ⅰ (読本) ドイツ語初級Ⅱ (文法) ドイツ語初級Ⅱ (読本) ドイツ語初級Ⅰ (総合) ドイツ語初級Ⅱ (総合) ドイツ語中級 } 8単位
フ ラ ン ス 語	実用フランス語技能検定試験 (仏検)	5級	フランス語初級Ⅰ (文法) 又は フランス語初級Ⅰ (読本) 2単位
		4級	フランス語初級Ⅰ (文法) フランス語初級Ⅰ (読本) フランス語初級Ⅱ (文法) フランス語初級Ⅱ (読本) フランス語初級Ⅰ (総合) } 4単位
		3級以上	フランス語初級Ⅰ (文法) フランス語初級Ⅰ (読本) フランス語初級Ⅱ (文法) フランス語初級Ⅱ (読本) フランス語初級Ⅰ (総合) フランス語初級Ⅱ (総合) フランス語中級 } 8単位

別表第3の2（平成18年度入学者適用）

科目	認定の対象とする外部検定試験等	合格基準	認定する授業科目・単位数
中国語	(HSK)	基礎1級	中国語初級Ⅰ（文法）又は 中国語初級Ⅰ（読本） 2単位
		基礎2級	中国語初級Ⅰ（文法） 中国語初級Ⅰ（読本） 中国語初級Ⅱ（文法） 中国語初級Ⅱ（読本） } 4単位
		基礎3級及び 初中等1級以上	中国語初級Ⅰ（文法） 中国語初級Ⅰ（読本） 中国語初級Ⅱ（文法） 中国語初級Ⅱ（読本） 中国語中級 } 8単位
朝鮮語	韓国語能力試験	1級	朝鮮語初級Ⅰ（文法） 朝鮮語初級Ⅰ（読本） 朝鮮語初級Ⅱ（文法） 朝鮮語初級Ⅱ（読本） 朝鮮語初級Ⅰ（総合） } 4単位
		2級以上	朝鮮語初級Ⅰ（文法） 朝鮮語初級Ⅰ（読本） 朝鮮語初級Ⅱ（文法） 朝鮮語初級Ⅱ（読本） 朝鮮語初級Ⅰ（総合） 朝鮮語初級Ⅱ（総合） 朝鮮語中級 } 8単位
スペイン語	スペイン語技能検定	6級	スペイン語初級Ⅰ（文法）又は スペイン語初級Ⅰ（読本） 2単位
		5級	スペイン語初級Ⅰ（文法） スペイン語初級Ⅰ（読本） スペイン語初級Ⅱ（文法） スペイン語初級Ⅱ（読本） } 4単位
		4级以上	スペイン語初級Ⅰ（文法） スペイン語初級Ⅰ（読本） スペイン語初級Ⅱ（文法） スペイン語初級Ⅱ（読本） スペイン語中級 } 8単位
イタリア語	実用イタリア語検定	5級	イタリア語初級Ⅰ（文法）又は イタリア語初級Ⅰ（読本） 2単位
		4級	イタリア語初級Ⅰ（文法） イタリア語初級Ⅰ（読本） イタリア語初級Ⅱ（文法） イタリア語初級Ⅱ（読本） } 4単位
		3级以上	イタリア語初級Ⅰ（文法） イタリア語初級Ⅰ（読本） イタリア語初級Ⅱ（文法） イタリア語初級Ⅱ（読本） イタリア語中級 } 8単位

- 備考
- 1 成績の取り扱いは「認定」とする。
  - 2 外部検定試験等による単位認定は、一外国語につき8単位を限度とする。
  - 3 英語に関しては、【英語関係Ⅰ】と【英語関係Ⅱ】は重複して単位認定の対象とする。  
ただし、【英語関係Ⅰ】の中での単位認定は1回限りとする。
  - 4 外部検定試験等による単位認定は、同一科目名の繰り返し履修が可能な授業科目を除いて、一つの授業科目について1回限りとする。
  - 5 法学部夜間主コースは、別表第3の2に掲げる科目（韓国語、スペイン語及びイタリア語）については、卒業要件に含まれていないため、認定の対象とはなりません。

別表第3附表（平成18年度入学者適用）

項 番	授 業 科 目 名
①	英語（教育学部） 経済実用英語 英語（理学部） 英語（基礎医用英語） 英語（歯学部） 英語（工学部） 英語（環境理工1） 英語（環境理工2） 英語（環境理工3） 英語（環境理工4） 英語（MPコース）
②	英語（ネイティブ）
③	英語（オラコン）
④	英語（作文・文法）
⑤	英語（読解：人文）
⑥	英語（読解：社会）
⑦	英語（読解：自然）
⑧	英語（検定）

別表第7（大学間交流協定に基づく語学研修の学修成果に係る取扱い）

語学研修大学名	合格基準	認定科目	認定単位数	備考
南オレゴン大学	南オレゴン大学の成績評価 D（下級）以上	教養教育科目 外国語科目 英語 又は 専門教育科目 (認定科目の指定は各学部のために委ねる)	2単位	平成11年度以降 入学者より適用
アデレード大学	アデレード大学の成績評価 D以上	教養教育科目 外国語科目 英語 又は 専門教育科目 (認定科目の指定は各学部のために委ねる)	4単位まで	平成11年度以降 入学者より適用
成均館大学校	成均館大学校の成績評価 60点以上			
	①初級1クラス	朝鮮語初級Ⅱ 朝鮮語初級Ⅱ	2単位 2単位	平成11年度～平 成15年度入学者
	②初級2クラス以上	朝鮮語中級 朝鮮語中級	2単位 2単位	
	①初級1クラス	朝鮮語初級Ⅱ（文法） 朝鮮語初級Ⅱ（読本）	2単位 2単位	平成16年度～平 成18年度入学者
	②初級2クラス以上	朝鮮語中級 朝鮮語中級 又は 朝鮮語初級Ⅱ（総合）	2単位 2単位 4単位	
	①初級1クラス	韓国語初級Ⅱ（文法） 韓国語初級Ⅱ（読本）	2単位 2単位	平成19年度以降 入学者
	②初級2クラス以上	韓国語中級 韓国語中級 又は 韓国語初級Ⅱ（総合）	2単位 2単位 4単位	

## 別表第1及び第2参考 (平成19年度以降入学者適用)

### 外部検定試験等による単位認定について

- 入学時TOEIC-IPで470点を取得 (【英語関係Ⅰ】の合格基準) した後, 他のTOEIC (例: カレッジTOEIC) で590点を取得 (【英語関係Ⅰ】の合格基準) した場合

TOEIC-IP 470点	・・・英語 (オラコン)	認定 (2単位)	
TOEIC-IP 590点	・・・英語 (作文・文法)	認定 (2単位)	計4単位
※【英語関係Ⅰ】の単位認定の上限は4単位のため, 6単位として認定はしない			

- 入学時TOEIC-IPで470点を取得 (【英語関係Ⅰ】の合格基準) した後, 英検で準1級を取得 (【英語関係Ⅰ】の合格基準) した場合

TOEIC-IP 470点	・・・英語 (オラコン)	認定 (2単位)	
英検準1級	・・・英語 (作文・文法)	認定 (2単位)	計4単位
※【英語関係Ⅰ】の単位認定の上限は4単位のため, 6単位として認定はしない			

- 入学時TOEIC-IPで470点を取得 (【英語関係Ⅰ】の合格基準) した後, 他のTOEIC (例: カレッジTOEIC) で730点を取得 (【英語関係Ⅱ】の合格基準) した場合

TOEIC-IP 470点	・・・英語 (オラコン)	認定 (2単位)	
TOEIC-IP 730点	・・・英語 (作文・文法)	認定 (2単位)	
	英語 (検定)	認定 (2単位)	計6単位
※TOEIC【英語関係Ⅰ及びⅡ】の単位認定の上限は6単位のため, 8単位として認定はしない			

- 入学時TOEIC-IPで470点を取得 (【英語関係Ⅰ】の合格基準) した後, 国連英検でA級を取得 (【英語関係Ⅱ】の合格基準) した場合

TOEIC-IP 470点	・・・英語 (オラコン)	認定 (2単位)	
国連英検A級	・・・英語 (教育学部)	認定 (2単位)	
	英語 (読解)	認定 (2単位)	
	英語 (検定)	認定 (2単位)	計8単位
※単位認定は一外国語につき8単位が限度のため, 10単位として認定はしない			

- 入学時TOEIC-IPで590点を取得 (【英語関係Ⅰ】の合格基準) した後, 他のTOEIC (例: カレッジTOEIC) で700点を取得 (【英語関係Ⅰ】の合格基準) した場合

TOEIC-IP 590点	・・・英語 (オラコン)	認定 (2単位)	
	英語 (作文・文法)	認定 (2単位)	計4単位
TOEIC-IP 700点			
※【英語関係Ⅰ】の単位認定の上限は4単位のため, 8単位として認定はしない			

- 入学時TOEIC-IPで590点を取得 (【英語関係Ⅰ】の合格基準) した後, 英検で準1級を取得 (【英語関係Ⅰ】の合格基準) した場合

TOEIC-IP 590点	・・・英語 (オラコン)	認定 (2単位)	
	英語 (作文・文法)	認定 (2単位)	計4単位
英検準1級			
※【英語関係Ⅰ】の単位認定の上限は4単位のため, 8単位として認定はしない			

- 入学時TOEIC-IPで590点を取得（【英語関係Ⅰ】の合格基準）した後、他のTOEIC（例：カレッジTOEIC）で730点を取得（【英語関係Ⅱ】の合格基準）した場合

TOEIC-IP 590点	・・・・英語（オラコン）	認定（2単位）	
	英語（作文・文法）	認定（2単位）	
TOEIC-IP 730点	・・・・英語（読解）	認定（2単位）	計6単位
※TOEIC【英語関係Ⅰ及びⅡ】の単位認定の上限は6単位のため、10単位として認定はしない			

- 入学時TOEIC-IPで590点を取得（【英語関係Ⅰ】の合格基準）した後、国連英検でA級を取得（【英語関係Ⅱ】の合格基準）した場合

TOEIC-IP 590点	・・・・英語（オラコン）	認定（2単位）	
	英語（作文・文法）	認定（2単位）	
国連英検A級	・・・・・・英語（理学部）	認定（2単位）	
	英語（検定）	認定（2単位）	計8単位
※単位認定は一外国語につき8単位が限度のため、12単位として認定はしない			

- 入学時TOEIC-IPで730点を取得（【英語関係Ⅱ】の合格基準）した後、英検で1級を取得（【英語関係Ⅱ】の合格基準）した場合

TOEIC-IP 730点	・・・・英語（ネイティブ）	認定（2単位）	
	英語（オラコン）	認定（2単位）	
	英語（作文・文法）	認定（2単位）	
英検1級	・・・・・・英語（教育学部）	認定（2単位）	計8単位
※単位認定は一外国語につき8単位が限度のため、14単位として認定はしない			

- 独検4級に合格した場合 から ○韓国語能力試験・・・ まで5行を削除

- 仏検5級に合格した後、仏検4級に合格し、そのうえでさらに仏検3級に合格した場合

仏検5級	・・・・フランス語初級Ⅰ（文法），フランス語初級Ⅰ（読本）	から認定	計2単位
仏検4級	・・・・フランス語初級Ⅰ（文法），フランス語初級Ⅰ（読本）， フランス語初級Ⅱ（文法），フランス語初級Ⅱ（読本）， フランス語初級Ⅰ（総合）	のうち認定済みの授業科目以外から認定	計4単位
そのうえでさらに仏検3級に合格した場合			
	・・・・フランス語初級Ⅰ（文法），フランス語初級Ⅰ（読本）， フランス語初級Ⅱ（文法），フランス語初級Ⅱ（読本）， フランス語中級	のうち認定済みの授業科目以外から認定	計2単位
※単位認定は一外国語につき8単位が限度のため、認定可能な単位は2単位となる			

- 仏検5級を受けずに仏検4級に合格し、そのうえでさらに仏検3級に合格した場合

仏検4級	・・・・フランス語初級Ⅰ（文法），フランス語初級Ⅰ（読本）， フランス語初級Ⅱ（文法），フランス語初級Ⅱ（読本）， フランス語初級Ⅰ（総合）	から認定	計4単位
そのうえでさらに仏検3級に合格した場合			
	・・・・フランス語初級Ⅰ（文法），フランス語初級Ⅰ（読本）， フランス語初級Ⅱ（文法），フランス語初級Ⅱ（読本），		

フランス語初級Ⅰ（総合）、フランス語初級Ⅱ（総合）、  
フランス語中級のうち認定済みの授業科目以外から認定 計4単位  
※単位認定は一外国語につき8単位が限度のため、12単位として認定はしない

○ 仏検5級、4級を受けずに仏検3級に合格した場合

仏検3級・・・フランス語初級Ⅰ（文法）、フランス語初級Ⅰ（読本）、  
フランス語初級Ⅱ（文法）、フランス語初級Ⅱ（読本）、  
フランス語初級Ⅰ（総合）、フランス語初級Ⅱ（総合）、  
フランス語中級 から認定 計8単位

○ 独検、中国語漢語水平考試、スペイン語技能検定、実用イタリア語検定についても、仏検と同様に単位認定を行う。

○ 韓国語能力試験1級に合格した後、韓国語能力試験2級に合格した場合

韓国語能力試験1級・・・韓国語初級Ⅰ（文法）、韓国語初級Ⅰ（読本）、  
韓国語初級Ⅱ（文法）、韓国語初級Ⅱ（読本）、  
韓国語初級Ⅰ（総合） から認定 計4単位

韓国語能力試験2級・・・韓国語初級Ⅰ（文法）、韓国語初級Ⅰ（読本）、  
韓国語初級Ⅱ（文法）、韓国語初級Ⅱ（読本）、  
韓国語初級Ⅰ（総合）、韓国語初級Ⅱ（総合）、  
韓国語中級のうち認定済みの授業科目以外から認定 計4単位  
※単位認定は一外国語につき8単位が限度のため、12単位として認定はしない

○ 韓国語能力試験1級を受けずに韓国語能力試験2級に合格した場合

韓国語能力試験2級・・・韓国語初級Ⅰ（文法）、韓国語初級Ⅰ（読本）、  
韓国語初級Ⅱ（文法）、韓国語初級Ⅱ（読本）、  
韓国語初級Ⅰ（総合）、韓国語初級Ⅱ（総合）、  
韓国語中級 から認定 計8単位

**別表第3及び第4参考**（平成16年度～18年度入学者適用）

**外部検定試験等による単位認定について**

- 英検準1級に合格（【英語関係Ⅰ】の合格基準）した後、TOEFL・CBTで213点以上を取得（【英語関係Ⅱ】の合格基準）した場合

英検準1級	英語（教育学部）	認定（2単位）
	英語（ネイティブ）	認定（2単位）
TOEFL・CBT213点以上	英語（作文・文法）	認定（2単位）
	英語（読解：人文）	認定（2単位）
	※8単位として認定はしない	

- 英検準1級に合格（【英語関係Ⅰ】の合格基準）した後、TOEFL・CBTで173点以上、212点以下を取得（【英語関係Ⅰ】の合格基準）した場合

英検準1級	英語（読解：人文）	認定（2単位）
	英語（検定）	認定（2単位）
TOEFL・CBT（173点以上212点以下）	※追加認定はしない	

- TOEICで730点以上を取得（【英語関係Ⅱ】の合格基準）した場合

TOEIC（730点以上）	英語（教育学部）	認定（2単位）
	英語（読解：人文）	認定（2単位）
	英語（読解：社会）	認定（2単位）
	英語（検定）	認定（2単位）

- 独検4級に合格した場合 から ○韓国語能力試験・・・ まで5行を削除

- 仏検5級に合格した後、仏検4級に合格し、そのうえでさらに仏検3級に合格した場合

仏検5級・・・フランス語初級Ⅰ（文法）、フランス語初級Ⅰ（読本） から認定 計2単位

仏検4級・・・フランス語初級Ⅰ（文法）、フランス語初級Ⅰ（読本）、  
フランス語初級Ⅱ（文法）、フランス語初級Ⅱ（読本）、  
フランス語初級Ⅰ（総合） のうち認定済みの授業科目以外から認定 計4単位

そのうえでさらに仏検3級に合格した場合

・・・フランス語初級Ⅰ（文法）、フランス語初級Ⅰ（読本）、  
フランス語初級Ⅱ（文法）、フランス語初級Ⅱ（読本）、  
フランス語中級 のうち認定済みの授業科目以外から認定 計2単位

※単位認定は一外国語につき8単位が限度のため、認定可能な単位は2単位となる

- 仏検5級を受けずに仏検4級に合格し、そのうえでさらに仏検3級に合格した場合

仏検4級・・・フランス語初級Ⅰ（文法）、フランス語初級Ⅰ（読本）、  
フランス語初級Ⅱ（文法）、フランス語初級Ⅱ（読本）、  
フランス語初級Ⅰ（総合） から認定 計4単位

そのうえでさらに仏検3級に合格した場合

・・・フランス語初級Ⅰ（文法），フランス語初級Ⅰ（読本），  
フランス語初級Ⅱ（文法），フランス語初級Ⅱ（読本），  
フランス語初級Ⅰ（総合），フランス語初級Ⅱ（総合），  
フランス語中級のうち認定済みの授業科目以外から認定

計4単位

※単位認定は一外国語につき8単位が限度のため，12単位として認定はしない

○ 仏検5級，4級を受けずに仏検3級に合格した場合

仏検3級・・・フランス語初級Ⅰ（文法），フランス語初級Ⅰ（読本），  
フランス語初級Ⅱ（文法），フランス語初級Ⅱ（読本），  
フランス語初級Ⅰ（総合），フランス語初級Ⅱ（総合），  
フランス語中級から認定

計8単位

○ 独検，中国語漢語水平考試，スペイン語技能検定，実用イタリア語検定についても，仏検と同様に単位認定を行う。

○ 韓国語能力試験1級に合格した後，韓国語能力試験2級に合格した場合

韓国語能力試験1級・・・朝鮮語初級Ⅰ（文法），朝鮮語初級Ⅰ（読本），  
朝鮮語初級Ⅱ（文法），朝鮮語初級Ⅱ（読本），  
朝鮮語初級Ⅰ（総合）から認定

計4単位

韓国語能力試験2級・・・朝鮮語初級Ⅰ（文法），朝鮮語初級Ⅰ（読本），  
朝鮮語初級Ⅱ（文法），朝鮮語初級Ⅱ（読本），  
朝鮮語初級Ⅰ（総合），朝鮮語初級Ⅱ（総合），  
朝鮮語中級のうち認定済みの授業科目以外から認定

計4単位

※単位認定は一外国語につき8単位が限度のため，12単位として認定はしない

○ 韓国語能力試験1級を受けずに韓国語能力試験2級に合格した場合

韓国語能力試験2級・・・朝鮮語初級Ⅰ（文法），朝鮮語初級Ⅰ（読本），  
朝鮮語初級Ⅱ（文法），朝鮮語初級Ⅱ（読本），  
朝鮮語初級Ⅰ（総合），朝鮮語初級Ⅱ（総合），  
朝鮮語中級から認定

計8単位

## 放送大学との単位互換の実施に関する内規

平成21年5月27日制定

平成21年9月17日改正

薬学部教授会

(趣旨)

第1条 この内規は、岡山大学薬学部規程（平成16年岡大薬規程第1号。以下「学部規程」という。）第12条の規定による放送大学との単位互換の実施に関し必要な事項を定める。

(授業科目の公示)

第2条 学生が履修可能な放送大学の授業科目は、薬学部教務委員会により、前年度の12月に公示する。

(授業科目の履修)

第3条 学生が放送大学の授業科目を履修する場合は、所定の期日までに特別聴講学生出願票を提出しなければならない。

(特別聴講)

第4条 放送大学の特別聴講学生として授業科目の履修を希望する学生の出願(科目登録)、履修、単位修得等については、放送大学の定めるところによる。

2 前項の規定により、授業科目の履修を希望する学生は、放送大学に、特別聴講学生の授業料として、1単位につき、所定の額を納入しなければならない。

(単位の認定)

第5条 放送大学の特別聴講学生として修得した単位の認定は、学部規程第12条第3項及び第4項の規定に基づき、別表第1に定める科目区分に応じて、卒業要件単位として認定する。ただし、この場合30単位を超えないものとする。

2 前項の規定により、単位を認定された授業科目の成績評価の表示は、「認定」とする。また、科目名の前に「(放)」を表示し、他の修得科目と区別する。

附 則

この内規は、平成21年10月1日から施行する。

別表第1 単位認定の科目区分等（第5条関係）

平成20年度以降入学者適用			
薬学部の科目区分等			放送大学の授業科目等
教養教育科目	主題科目	現代の課題 人間と社会 健やかに生きる 自然と技術	主題科目
	個別科目	人文・社会科学	基礎科目 共通科目の一般科目（人文系） 共通科目の一般科目（社会系）
		自然科学	基礎科目 共通科目の一般科目（自然系）
		生命・保健科学	基礎科目の「運動と健康」
	外国語科目	英語 （英語（薬学部1）、英語 （薬学部2）及び英語（ネ イティブ）を除く。）	外国語科目
英語以外の外国語		英語以外の外国語	
専門教育科目	専門基礎科目		薬学部教務委員会が履修を認めた自然科学系科目

平成18年度～平成19年度入学者適用			
薬学部の科目区分等			放送大学の授業科目等
教養教育科目	主題科目	学問の世界 人間と社会 健やかに生きる 自然と技術	主題科目
	個別科目	人文・社会科学	基礎科目 共通科目の一般科目（人文系） 共通科目の一般科目（社会系）
		自然科学	基礎科目 共通科目の一般科目（自然系）
		生命・保健科学	基礎科目の「運動と健康」
	外国語科目	英語 （英語（薬学部1）、英語 （薬学部2）及び英語（ネ イティブ）を除く。）	外国語科目
英語以外の外国語		英語以外の外国語	
専門教育科目	専門基礎科目		薬学部教務委員会が履修を認めた自然科学系科目

平成16年度～平成17年度入学者適用			
薬学部の科目区分等			放送大学の授業科目等
教養教育科目	主題科目	知の構造 自己と他者 文化と制度 いのち 国際化時代への展望 自然との共生	主題科目
	個別科目	人文科学	基礎科目，共通科目の一般科目（人文系）
		社会科学	基礎科目，共通科目の一般科目（社会系）
		自然科学	基礎科目，共通科目の一般科目（自然系）
	主題科目	いのち	基礎科目の「運動と健康」
外国語科目	英語 （英語（薬学部1）、英語 （薬学部2）及び英語（ネ イティブ）を除く。）	外国語科目	英語
	英語以外の外国語		英語以外の外国語
専門教育科目	専門基礎科目		薬学部教務委員会が履修を認めた自然科学系科目